

# 対馬新聞

## 対馬の石屋根 実存数 36戸

### 44年間で2223戸減少

#### 『石屋根の里—対馬』が論文に



図1 権根の石屋根（対馬市厳原町、1977）



図2 久根浜の石屋根（厳原町、1977）

きたい」と、11月12日に仁位氏の写真を聞き取り調査を行って論文として取りまとめました。

山田教授は、同論文を今年3月6日の日本建築学会九州支部で発表（オンライン）している。

真家・仁位孝雄氏の講演『ふるさと対馬を撮る！対馬&韓国』を受講した山田由香里教授が、仁位氏に「対馬の石屋根について話を聞

紀要『地域論叢』の

論文・報告『石屋根の里—対馬』には、仁位氏の写真の他、権根、安神、久根田舎など10地区について、1977年の航空写真に、仁位氏が当時の石屋根の位置の記憶を辿りながらマーキング。

地区別に風土や石屋根に関する説明、エピソードが盛り込まれている。

『対馬の石屋根倉庫を通してみる地域的持続性の技術と知恵』の内容（材料・構造・耐性・室内温熱環境）と併せて、近代・対馬石屋根読本（参考書）となっている。

山田教授は、『地域論叢』2022・3 No. 37を、対馬図書館に寄贈している。

また、今回の論文の発行と同時に、山田教授と仁位氏が来島して石屋根の残存数の調査を実施。

同調査に関する資料を仁位氏よりご提供いただいていますので、近日連載いたします。

長崎総合科学大学地域科学研究所が発行する紀要『地域論叢』2022・3 No. 37に、長崎総合科学大学工学部建築学コースの山田由香里教授が論文・報告を掲載。

その中で、「写真家・仁位孝雄氏による『石屋根の里—対馬』」1978年の対馬石屋根の写真資料が18頁。他山田教授と他3氏による『対馬の石屋根倉庫を通してみる地域的持続性の技術と知恵』が20頁にわたって掲載。対馬の石屋根にスポットが充てられている。

これは、昨年10月に開催された長崎楽会の座学で、対馬出身の写

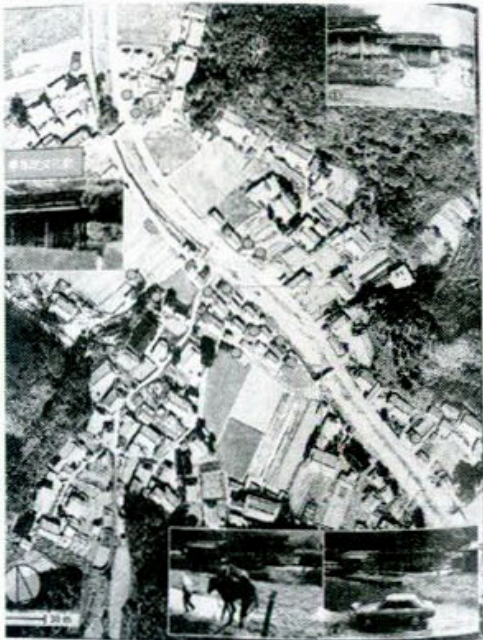


図3 石屋根倉庫（1978年4月30日・15戸内1戸は本典の区域）（1977年撮影航空写真、061771-007）



図4 権根久根山田地区・石屋根倉庫（1978年4月30日・38戸内1戸は本典の区域）（1977年撮影航空写真、061771-026-22、1-9）（182022）